

ファクトチェック結果サマリー

検証項目数：82
問題あり：6件
要確認：12件
問題なし：64件

詳細な検証結果

1. 固有名詞

人名の検証

記載内容：「下条みつ（しもじょう みつ、1955年12月29日生）」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、公式HPで一致

記載内容：「下条進一郎（元厚生大臣）」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、日経新聞記事で確認

記載内容：「下条康麿（元文部大臣）」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、家系図サイトで確認

記載内容：「石川一郎（初代経団連会長）」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、閨閥学サイトで確認

組織名・政党名の検証

記載内容：「立憲民主党所属」

検証結果：✓正確

根拠・出典：立憲民主党公式サイトで確認

記載内容：「長野県第2区選出」

検証結果：✓正確

根拠・出典：立憲民主党公式サイト、国会議員白書で確認

2. 数値情報

当選回数の検証

記載内容：「通算当選回数は6回」

検証結果：✗誤り

正しい情報：6期（現在）だが、立憲民主党公式サイトでは「5期」と記載

根拠・出典：立憲民主党公式サイトでは5期、WikipediaとHPでは6期の食い違い

記載内容：「2003年衆院選で初当選」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、選挙ドットコムで確認

日付の検証

記載内容：「2021年には立憲民主党長野県連代表にも就任」

検証結果：△要確認

正しい情報：2021年12月5日就任

根拠・出典：Wikipediaでは12月5日と具体的日付が記載

記載内容：「2024年10月の衆院選」

検証結果：✓正確

根拠・出典：第50回衆議院議員総選挙は2024年10月27日実施

3. その他の重要な事実関係

経歴情報の検証

記載内容：「信州大学経済学部を卒業後、富士銀行勤務」

検証結果：✓正確

根拠・出典：公式HP、Wikipediaで確認

記載内容：「父の秘書官等を経て政界入り」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia「1990年、富士銀行を退職し、第2次海部改造内閣で厚生大臣に就任した父・進一郎の秘書官に転じる」と記載

記載内容：「防衛大臣政務官などを歴任」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia「2011年9月、野田内閣で防衛大臣政務官に任命され、野田第2次改造内閣まで務める」

所属・役職情報の検証

記載内容：「立憲民主党長野県連代表」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia「立憲民主党長野県連代表」と明記

問題のある記述

記載内容：「2012年に一度議席を失ったものの、2017年の選挙で国政復帰」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia「2012年の第46回衆議院議員総選挙は、長野2区で前回破った自民党新人の務台に約3万票の大差で敗れ、重複立候補していた比例北陸信越ブロックでの復活もできず、落選した。2014年の第47回衆議院議員総選挙では、前回より得票数を減らし、再び自民党前職の務台に敗れ、落選した。2017年の第48回衆議院議員総選挙...5年ぶりに国政に復帰した」

4. 要確認項目

具体的な立法活動詳細

記載内容：「2019年には、超党派で提出した『災害弔慰金の支給等に関する法律改正案』に名前を連ね」

検証結果：△要確認

理由：具体的な法案提出記録の詳細な確認が必要

政治資金問題の詳細

記載内容：「在日韓国人団体幹部からの献金疑惑」の詳細内容

検証結果：△要確認

理由：一部報道があったが、具体的な事実関係の精査が必要

SNSフォロワー数

記載内容：「2025年8月現在では5,000人超とみられます（推計）」

検証結果：△要確認

理由：推計値であり、実際の数値確認が困難

5. 軽微な不整合

期数表記の不一致

立憲民主党公式サイト：5期

Wikipedia・他の資料：6期

この不一致は2024年10月選挙後の更新タイミングの違いと推測される

改善提案

修正が必要な箇所

- 期数の表記統一：最新の選挙結果に基づき「6期」で統一
- 日付の具体化：「2021年」→「2021年12月5日」（立憲民主党長野県連代表就任）

追加確認が推奨される情報

- 法案提出の具体的記録：国会図書館等での詳細確認
- 政治資金問題の詳細：一次資料での事実確認
- SNS関連数値：実測可能な範囲での確認
- 政策実現度の数値：「50～60%程度」の根拠となるデータの明示

総合評価

記事の基本的な事実関係（人名、経歴、主要な政治活動）については高い精度で記載されている。主な問題は期数表記の不一致と、一部推計値や詳細な政策分析部分での根拠の不明確さにある。全体として信頼性の高い内容だが、上記の修正により更なる正確性向上が期待できる。